

2014 (平成 26)年度 海外留学体験報告書 ウエストバージニア大学(アメリカ)

1. 留学中の活動詳細について

現在振り返ると1セメスターのアメリカ留学というのは短かったと思いますが現地にいる時は正直「まだ後1か月もあるのか」などいつも思っていました。早く帰りたいと思っていた理由は例えばウエストバージニア大学の周辺は僕が住んでいる大阪とは違い田舎で24時間営業の店が当たり前と思っている僕にとっては夜の9時にキャンパスのレストランが閉まる事に不便を感じた事や2年前にも1セメスター経営学部のIEPという英語プログラムを通してWVUに留学したので既に色々な事を知っていたからです。しかし、一番の理由はやはり「Assignmentの多さ」でした。

僕がウエストバージニア大学に留学し履修した科目はInternational Business, HR(人的資源) Management Fundamentals, Small Business Entrepreneurship, Individual & Organizationです。それぞれの授業の概要を説明しますとInternational Businessではグローバル化に伴い世界の多国籍企業はどのような戦略を使い利益を上げているのかを学ぶ授業です。またそれ以外にも著作権防止の方法や合弁事業のメリット、デメリットなども学びます。要はグローバル社会で企業が生き残る方法を学ぶ授業でした。この授業にだけ中間テストがあり僕は50点中33点を取りましたが(平均点が32点でした)、授業内容はとても複雑でした。しかし中には近畿大学で既に学んだ物や本で読んだ物が授業で取り上げられました。教授はUsha Haleyというインド人女性でオバマ大統領に会って対中国貿易に関して助言をした事があると言っていました。そんな人の授業を履修出来た事はとても光栄です。最後にチーム毎に実際に「海外直接投資をしたらどの国のどの産業にするかという」課題が与えられ僕たちはスイスのワイン産業を選びスイスワイン産業の状況、法整備などに関してプレゼンテーションを行い最後に20ページに及ぶレポートを書きました。期末テストはなかったです。この授業ですごいなあと思った事は月、水、金の授業日の毎週金曜日に大学院生と一緒にその週のテーマにそった実際の企業事例を選びディスカッションをするというのがあった事です。

HR Management Fundamentalsではその名の通りどのようにして人事部マネージャとして従業員に満足に職場で働いてもらえるかを学びました。この授業も週に3回×50分授業でしたが課題の頻度が一番多かったです。一週間に最低1回は章ごとのDiscussion Questionsに対するレポートを提出する必要がありました。しかしそのおかげで授業前には必ず教科書を読むという習慣が付き授業中の教授の質問にも手を上げて発言していました。やる事をやれば大丈夫という感じでした。この授業ではよく授業の最初に様々なアクティビティーをしていました。それをする事で分かりにくい授業内容も理解できた事も良くありました。授業内容としては、従業員のクレームの対処方法や労働組合について更にはどのように彼らのモチベーションを高める事が出来るかなどを学びました。

3つ目は Small Business Entrepreneurship でこれは僕が最も履修したい授業でした。何故ならこのコースではどのように起業家としてのスタートを切れるのかを学ぶ事が出来る授業は近畿大学にはなかったからです。驚くべき事に毎回教授の広い人脈を使用して Guest Speaker と言って毎回実際に何かの店のオーナーや弁護士など様々な人達が来てくれ起業する為に必要な法知識、顧客の作り方などについて話してくれました。この授業と Individual & Organization では授業時間が午後の6時から8時50分でしたので最初の1時間はゲストスピーカーで後は講義でした。最後に Feasibility Study というのがあって実際にビジネスのアイデアをプロの投資家に見てもらう時に作成するレポートですがそれぞれのアイデアを分析してレポートにするというのが最終課題でした。僕は White Rain という 3 in 1 shampoo つまりシャンプーとコンディショナーとボディウォッシュとして使用できるし製品を日本から輸入するというアイデアにしました。10枚に渡って纏めました。

最後の Individual & Organization では主にリーダーシップについての勉強です。心理学的なセオリー(マズローの欲求5段階など)も色々含まれていました。この授業では Journal Entries と言って授業で出てきた理論を自分の実生活での経験に応用したエントリーを書くという課題が5回ありました。例えば人を率いる能力(リーダーシップ)は先天的な物か後天的な物かなどです。こちらも週1の2時間50分でしたが大概是早めに授業は終わりました。

生活面では2年前のホームステイ生活とは比較出来ない程楽しかったです。メインキャンパスから歩いて5分ほどの所にある Arnold Apartment という寮に住んだのですが図書館や僕が勉強していた Business & Economics Building などがあるメインキャンパスから近いというのは本当に便利でした。おかげで無遅刻、無欠席でした。食事は Meal Plan を使いました。Meal Plan には様々なプランがあり僕は 160 回分の Blue を選択しました。学生証にチャージされるので WVU 内のファストフード店やレストランで使用できます。1回使うごとに1回スワイプなので160回は少ないかぁと思いましたがそうではなく帰国前に20回分使い切れませんでした。レストランは全部で7種類くらいありダウントウンには4つありました。それぞれのレストランにはそれぞれの特徴があってあるレストランでは釜戸で焼いたピザが食べられる所などがありバラエティに富んでおり飽きないです。大きな休みは2回あります。一つは Fall Break で10月にあり土曜から火曜日まで4日間の休暇があります。そして最後は11月の終わりにあるサンクスギビングです。これは一週間ほどあります。大概の留学生はこの2度の休暇中に旅行しますが僕は宿題の為に Fall Break はどこにも行けませんでした。ただ大概の学生は何処かに行っていました。人気スポットは DC、New York、Philadelphia などです。しかしサンクスギビングには念願のシカゴに旅行出来ました。大阪とシカゴは姉妹都市でもあり摩天楼発祥の地として有名でしたが高層ビルの多さ、デザインには圧倒されました。NYほど人は多くないですし全体的にゆとりがありました。シカゴまではピッツバーグから AM TRAK という長距離電車を使用しました。往復で220ドルとバスよりも安く行けました。パーティーやバーに繰り出すという事は一切しませんでした。理由は勉強で忙しかったのとそれよりも筋トレや読書に励んでいたか

らです。

経費に関しましては次のようになります。

食費-Blue Meal Plan 20 万円

寮費-28 万円

飛行機代-往路 15 万円 復路 9 万 6000 円

シカゴへの旅行代(電車代込み)-10 万円

その他(シーツ類、お菓子、日用品、外食費など)-10 万円ほど

で合計約 95 万円ほどです。勿論大学から奨学金として 30 万円が支給されますのでそれを使えば 65 万円になります。

2. 留学の成果について

- アメリカに住んでいましたのでインターネットを使いアメリカ国内で使用されているスラングを探しそれを実際に使う機会が毎日ありましたので使用していました。よって様々なアメリカスラングの語彙を習得する事が出来ました。勿論スラングだけではなく色々なフレーズ、イディオムも習得出来ました。コツとしてはネットか辞書で自分が使いたいと思う単語を見つけたら紙に書いて常に持ち歩く事です。で使ったら丸をしたりすると成果がハッキリしますし分かってもらえなかったら紙を見せる事で分かってもらえます。
- 英語以外の言語を使用できた事はとても大きかったです。僕はアメリカに行くことは世界一周をする事と同じだと思っています。特にシカゴに行った時にはヒスパニック系の人が多く居住しておりスペイン語を上達させる事が出来ました。他にもルームメイトがケベック出身だったのでフランス語も上手になりました。
- 一緒にアメリカ人の学生と勉強をする事は本当に刺激あふれる事です。クラスで僕だけが留学生という事もありましたが現地の学生は僕を助けようとしてくれました。特に2つの授業が一緒だったアメリカ人学生がいるのですが彼らとは一生の友達になりました。他にも僕の事を助けてくれた心温かい多くの友達とは今でも Facebook で繋がっています。
- 高層ビルが好きな僕はいつも Google Maps でシカゴの高層ビル群を見ていました。やはり勉強をする事は大事ですが旅行をするというのも大事です。
- やはり2年前の IEP とは違い寮で生活したので一人暮らしの練習をする事が出来ました。
- クラスで僕しか日本人がいなくても発言をしていました。緊張しますが自分の意見を言う練習が出来ました。

3. 反省点について

アメリカへ行く前にピッツバーグからモーガンタウンへのバスの予約をしました。当日ドライバーにプリントしたチケットを見せると乗れないと言われ理由を尋ねると「日付が違う」と言われ

ました。よく見てみるとその日は8月11日だったのに10日になっていました。日本とモーガンタウンでは時差が14時間です。日本で予約していたのですが時間の計算を誤りました。結局払ったお金は返金されました。他の反省点としては読書用の本を5冊ほど持って行ったのですが、11月頃で全部を読んでしまいました。学部で勉強をするので忙しくて読む時間はないだろうと高をくくっていましたが火曜日、木曜日は授業がない事もあり案外時間はありました。その後カリフォルニアにある日本書店、正直屋から本を6冊ほど買う事が出来ました。ホッとしました。

4. 海外留学を目指している学生へのアドバイスについて

海外に留学する事に対して多くの人が必要以上に心配しているのは語学力だと思います。しかし語学力よりももっと大切なのはガッツです。僕も初めは分からない事だらけでしたが奨学金をもらう為に良い成績を取る必要がありましたので頑張らなければならない状況でした。例えば日本人が誰もいない中で発言をした時に教授が僕の言っている事を理解出来なかったら必ずクラスメイトが助けてくれました。留学は思っているほど難しい物ではありません。後、海外に行くと自分の宗教について聞かれるので仏教、神道について勉強はしておいた方がいいと思います。友達に You can get away with many things と言われました。これはあなたなら多くの事をして許されるよ。という意味で僕たちが留学する国では外国人として扱われるので言葉の間違いに関してアメリカ人は本当に寛容です。恥ずかしがらずに話してください。僕は現地で可愛い生徒がいたら自然とあなたは可愛いねと言えるようになりました。日本では出来ませんが海外では出来ます。頑張ってください！